

はくあい

H A K U A I

発行所:博愛社/〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3丁目1-72/TEL06-6301-0367 FAX06-6301-5347
ホームページアドレス <https://hakuaisha-welfare.net>

**第4地域小規模児童養護施設
「つむぎ」 東住吉区にてスタート**

博愛社としては、4つ目となる地域小規模児童養護施設「つむぎ」が、2022（令和4）年8月20日に開設しました。淀川区の神津地域で長きに渡り地域の方に支えられたてきましたが、今回、新たな取り組みとして、東住吉区にある大阪聖三一教会ご協力のもと一軒家を建設していただき、6名の男児が新生活を始めました。本体施設と距離があることや転校することなど、こども、大人ともに不安がありました。建設中の建物を見学し地域散策をする中で、少しずつ不安を期待に変えていきました。こどもたちは自分一人の力だけで生活を送ることはできません。職員だけでなく、地域の方々に見守られ支えられてきたと実感できる支援を行っていきます。また、こどもたちが退所した後にも「つむぎに帰ろう」と思ってもらえるような家をこどもと協力し築きあげていきたいと思っています。

【リーダー 西川篤志】



「つむぎ」のウッドデッキ



「つむぎ」のダイニング

第5地域小規模児童養護施設

仮称「のぞみ」新たに開設

8月20日に4つ目となる地域小規模児童養護施設「つむぎ」が開設されたことに引き続き、5つ目の地域小規模児童養護施設となる新築物件を8月末に購入致しました。今回は、田川地域にあり、先行して運営している地域小規模児童養護施設「楓」「日向」にも近い場所になります。児童養護施設全体として、小規模化や家庭的な養育の推進がされる中、新たな地域への挑戦が始まります。開設の予定は3学期からですが、こどもたちの生活を整えながら、新しい家に足を運び、新生活に向けた楽しみを作っていきたいと思います。また、改めて大切にしていただきたいことは、生活単位を小規模化することでも、地域に出ていく事でもありません。あくまでそれは手段であって、そこに暮らすこどもや職員が、生き活きと暮らす事が何よりも大切です。ここに住まう人たちが思いやりを持ち、心遣いのあるホームになるように願います。準備を進めて参ります。

【勝原 駿】



(仮称)「のぞみ」の外観

四季
折々

ナザレホームの御大

児童養護ナザレホームでは雄のミニチュアダックスフンド、チャッピーがこどもたちと一緒に暮らしています。チャッピーは人間に換算すると80歳を超える小型犬で、ホームで生活する誰よりも長くナザレホームに住まうので、卒業生の中にはチャッピー目当てで尋ねて来る者も多くいます。昔はリードに繋がれたまま子どもを引っ張りどちらのお散歩かわからない状態でしたが、今では吠える合図で職員が抱き上げお散歩に繰り出します。一日のほとんどを寝て過ごし、ふと目を覚ましては「起きたよー」と吠えて知らせます。いびきをかいて眠る姿は微笑ましくもありますが、時折食欲がなかったり上手に動けなかったりするものが心配でゲージを覗き込む毎日です。チャッピーの姿が子どもへも良い影響を与えているはずと思い、穏やかな気持ちで寄り添っています。【児童養護 高橋明子】



「まだまだ元気です」

博愛社後援会会費
 ▽個人 1口 3千円
 ▽法人 1口 1万円
 いずれも年会費で、
 期間は4月～翌年3月
 ▽郵便振替口座番号
 0092074676
 ▽口座名義
 社会福祉法人 博愛社

第7波
で受けた影響

【特養 博愛の園】

7月22日朝方看護師からPHSが鳴り「抗原キットにて入居者1名陽性反応確認」と報告を受けました。今まで、職員の陽性者が数名出ても入居者に関して影響はありませんでした。ここまで耐えてきましたが「ついに来たか」というのが本音です。所属ユニットの入居者、職員全員に抗原検査を実施したところ合計7名陽性確認。翌日、翌々日と日を追うごとに感染が広がり最終的には合計46名の方が感染しました。そこで、レッドゾーンとグリーンゾーンにゾーニング（区画分け）しました。しかし、次々と感染が広がった4日目、レッドゾーンに職員はユニットリーダーしか居ない状況に。1人で15名の入居者を朝から晩まで切り盛りする事となりました。その後、レッドゾーンに有志ある職員がコロナウイルス感染療養中にも関わらず解熱した時点で続々と復帰し、陽性者の介護に務めました。何度もゾーニング計画や職員間の勤務表が白紙になり、職員間に緊張した空気を感ずるようになりました。基本的な事ですが換気、手洗い、消毒が

効果のある対策であり、今回の件で職員全体の意識が変わりました。8月18日収束後、数名の方が未だ入院中でありその方たちの一日も早い回復と普段の平和な生活が戻る事を願うばかりです。

【坂本康一郎】



「抗原検査に臨む看護師たち」



【水遊びが大好きなこどもたちの夏といえは!】

2022年の夏! 猛暑日が続くと予報される中、7日七夕の日に、待ちに待ったプール開きとなりました。こどもたちは水着に着替えながら、「せんせい見て!お母さんに買ってもらったの。かわいいでしょう。」「いいね、嬉しいね。」こどもたちの水着姿は、とってもかわいいですね。

初日は、チャプレンに水遊びやプール時の安全を神様にお祈りしていただきました。プール遊びのお約束をすると、「お友だち押ししたらあかん」「乗ってもだめ!」としっかりと覚えていたこどもたちです。各クラスコロナ禍の為、Aチームは、大プール! Bチームはビニールプールの水遊びをして交代で遊びます。大プールに入ると、「きゅー冷たい」と水しぶきを上げ「気持ち



「保護者からいただいたザリガニに興味津々です!」



「念願のプール遊び、コロナ対策として少人数ずつで楽しみました!」

いいね」と友だちと嬉しそうに入っていくこども、中には、保育教諭につかまり恐る恐る入るこどももいました。プールの中での遊びは、バタ足・水の掛け合い・ワニ歩き・らっこ・走って回る(洗濯機)後の流れるプールなどです。これらを楽しむこどもたちの笑顔は本当に最高でした。

【昆虫が大好きなこどもたちの夏といえは!】

トミンミンの鳴き声とともにこどもたちは網を持ってセミを見つけるのが日課です。クラスでは、大好きな昆虫や生き物の飼育をしています。

青虫は卵からかえって、アゲハチョウになるまで何匹も見守り観察しました。カブトムシは昨年の卵から成虫に羽化した10匹がいます。他にもカタツムリやカマキリ、蛾やめだか、ザリガニなど様々な生き物が各クラスで飼われています。これらは、高齢者施設や保護者の方々からもたくさんいただきました。

そして最近ではこども園に新しくウーパーパーが仲間入りです。大きいですよ! 近くに来られた際には、会いに来てください。

【保育主任 4歳児主任 竹林由香里】

楽しかった 保護者参加での行事

【こひつじ乳児保育園】

コロナ禍では、こどものみの行事や動画での配信などの変更が多く、保護者の参加が難しい状況が続いていました。その中、感染対策をした上で、

クラスターから学んだ対応

【児童養護施設 博愛社】

世間でコロナ感染症が流行る中、今年の1月中旬頃から博愛社でもクラスターになりました。コロナに慣れていない中でのこどもの発熱があり、その後も隔離など行わずに過ごす中、9人中7人が陽性。職員も2人陽性になりました。

わんぱくな男の子たちであり、隔離対応が大変だったことを今でも覚えています。クラスターから学んだ事として、早期の対応と見極めです。毎日検温を行い少しでも微熱があ

る場合は居室で隔離を行う事、

常時マスク着用、黙食の徹底を現状行っています。また、少しでも症状があるこどもは看護師に相談し、抗原検査を受けることで早期発見に繋がっています。それを徹底することで、1度目のクラスター以降7月下旬に3名の陽性者が出ましたが、クラスターになることなく収束することが出来ました。気を抜けない日々が続きますが、継続していきたいと思います。【井口梨菜】

をたくさんいただきました。これからも行事を通して、こどもたちの成長を見て頂けるように考えていきたいと思っています。【榎野明美】



「笑顔あふれる親子で遊ぼう会」



【こひつじ乳児保育園】

お誕生日会では、お誕生日のこともが、しかけ椅子に座るとオルゴールで誕生日の曲が鳴ります。周りの子どもたちもその子の緊張が伝わるのかみんなが静かにオルゴールの曲を聞いてくれています。その後、チャプレンが頭に手を乗せてくださり祝福をしていただくのですが、それも特別感がありじっとお祈りを聞いている子どもたちです。7

月は10人もの子がお誕生日会の主役でした。名前を呼ばれ恥ずかしくて前に出ることが出来ない子もいましたが、「はい」と大きな声でお返事をし、前に出る子もいます。みんなそれぞれ成長が感じられるひと時です。プレゼントの手作りマスコットとカードをもらって保育士のスケッチブックシアターを見ました。「スイカの後ろには何がかくれて



「オルゴールの椅子」

る?」「たこ」と大盛り上がりでした!

【園長 早川育子】



「チャプレンの祝福を受けてます」

戦前神格化された天皇は戦後、日本国憲法（一九四六年一月公布、翌年五月実施）によって象徴天皇制と位置づけられ、昭和天皇は四六年から一〇年近く地方巡行を行った。毎日新聞記者・藤樫準二は四六年、『陛下の「人間」宣言』を著し、行啓目的は「戦後の実情を視察して、その間に戦災者、引揚民の慰問」であり、「民生の安定、向上を願望されてのことであった」とし、「陛下の真のご心境は、

おこう。一つ目の「子供は可愛いね」博愛社で記者の質問にお答え」という記事には、階段を降りかけられた天皇に記者の「この子供たちをどうお思いになりますか」という突然の質問に天皇は振り返り「可愛いね」とびっくりするような力のあるお声で答へられた」とある。

ようなら、さようなら」と軽く頭をさげられた」と報じ、更に幼稚園で肩たたきという遊戯をみて「ポンポンと肩うちながら横目上目づかいに陛下のお顔を見るあけない眼の孤児たち三十八人に、陛下

た。内報を受けた博愛社では創業以来空前の慶事として、要所の修繕、畳換え、道路の修理清掃など、職員一同大童となって光栄の日の準備に当たった。…略…：女児と幼児にはララ委員会寄贈の色とりどりの洋服が支給され、年長男児は揃いのボーイスカウ

く一巡されたが、御巡路に整列していた子供たちは保母の号令で最敬礼をした。「この子供たちは、殆んど戦災孤児と外地よりの引揚孤児でございます」と、カツエが申上げると陛下は子供の傍にまで進まれ『それは可哀想に…』と、幾人かの子供の頭を撫でられた」とある。そして「基督の精神を以ってしっかりやって下さい」と、力強く激励された」と記されている。

博愛社の歴史探検 [37] 終戦後の天皇行啓と博愛社

「孤児のあどけなさに御涙、陛下と子供との語り、二人の子供が「さようなら」と可愛い声で陛下を送った時、「陛下も半歩ばかりおもどりになり」さ

「孤児のあどけなさに御涙、陛下と子供との語り、二人の子供が「さようなら」と可愛い声で陛下を送った時、「陛下も半歩ばかりおもどりになり」さ

は二度三度、グッとつばきを飲み込んでお眼をしばたかれた」と報じている。及川英雄の『主備え給う』（六五年）には「風薫る六月五日、近畿地方御視察の陛下は、博愛社に聖駕を枉げさせられ

迎えた」とある。そして「午後三時、御召自動車は到着した。一同の奉迎裡に理事室の御座所に小憩された。カツエは感激に胸を躍らせながら、博愛社の歴史と現況を奏上した。藪本主事の先導で社内を隈な

多くの戦災孤児たちを受け入れた博愛社にとって、この天皇訪問は大きな出来事として語りつがれている。終戦後の博愛社、とりわけ子供たちにとって忘れがたい歴史の一幕であった。

室田 保夫(関西学院大学名誉教授)